

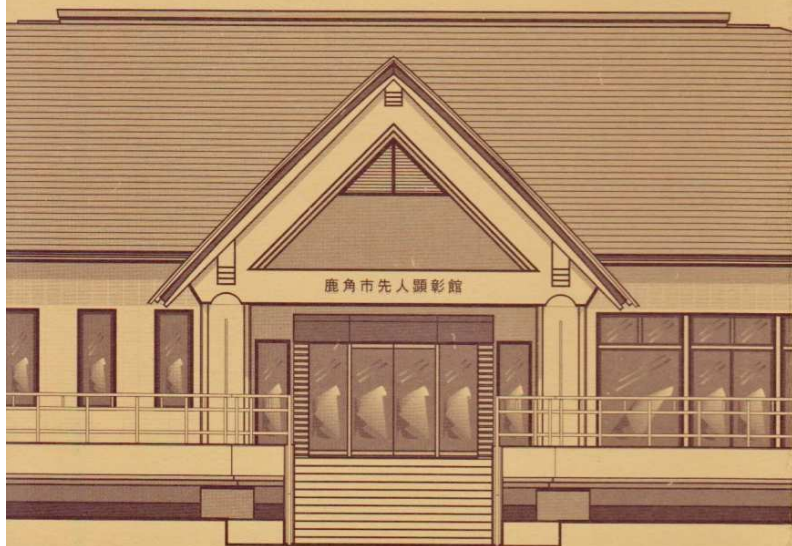
新しい文化を築いた人々…


先人顕彰シリーズ⑪

●石川伍一●

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。



鹿角市先人顕彰館  FAX 0186-35-5250

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2

略 歴

◎石川伍一

- 慶応2年 1866 • 5月23日 石川儀平、そめの長男として毛馬内に生まれる。
- 明治5年 1872 • 村鬘（寺小屋）に学ぶ。
- 明治7年 1874 • この年創立された毛馬内小学校に第1回生徒として入学する。
9月 盛岡の仁王小学校に転校する。
- 明治11年 1878 • 5月 仁王小学校上等科を卒業し、東京の攻玉社（近藤塾）に入塾する。
- 明治14年 1881 • 嶋田篁村に入塾し、漢学を修める。
このころ興亜思想に共鳴し始める。
- 明治16年 1883 • 興亜学校に入り、中国語を学ぶ。
- 明治18年 1885 • 中国上海に渡り、曾根海軍大尉のもとで情報収集活動に従事する。
- 明治20年 1887 • 漢口で荒尾精の売薬店「楽善堂」に入り売薬の傍ら各地を踏査する。
- 明治23年 1890 • 関海軍大尉のもとで軍諜報活動にあたる。（第2次訪中～25年）
- 明治25年 1892 • 井上海軍少佐のもとで軍諜報活動にあたる。（第3次訪中～27年）
- 明治27年 1894 • 8月1日 日清戦争勃発、単身天津城内に留まるが、潜伏中逮捕される。
9月20日 天津西門外で銃殺される。
享年29歳。

石川 伍一 の業績

1866-1894
国益に殉じた生涯



12歳のとき、上京して興亜学校などで中国語を学び、アジア発展のためには、当時疲弊していた中国を救済し発展させなければならないという興亜思想に共鳴し、19歳で中国へ渡る。

公使館付武官の書生や売薬商人として、数千キロにわたり船や徒歩で中国内各種情勢を調査したが、その成果は日本軍の大いに重用するところとなり、後の「清国兵要地誌」の基礎資料となった。日清戦争勃発後も続けて情報提供すべくひとり天津に留まったが、発見拘留され、明治27年9月天津城外で銃殺される。国のため一身を犠牲にした功績をもって従五位に叙せられる。